

## voice

長嶋さんをはじめ、2025年はまさに巨星墜つの一年だった。分けても敬愛してやまない仲代達也さんと不破哲三さんの死去は、本当に残念だ。お二人に共通するテーマは「戦争反対」。

仲代さんは、東京大空襲で一人の少女の手をとり逃げ惑った。気づくと、少女の腕だけが残り、終生そのことを悔いたという。戦争は反対だと最後の舞台「肝っ玉おっ母とその子どもたち」でも伝えた。舞台は能登演劇堂。自然と融和した素晴らしい舞台だ。4年前に一度だけ仲代さんの舞台を観に訪れた。

日本共産党の委員長もつとめた不破さん。佐藤栄作氏から小泉純一郎氏まで18人の首相と向き合った。「新首相への最初の質問では先の大戦が侵略戦争だったかどうかの認識を問うことにしている」という。間接的でありながら「国際的に侵略であるという厳しい批判を受けている」と初めて認めたのは中曽根首相だった。「かつての首相たちは共産党の質問でも真剣に受け止める誠実さがあった」とも話した（朝日新聞'25.12/31。3面）。

この「誠実さ」を元に今の政治をみていると、愕然とする。「裏金も統一教会問題」も無視して突然選挙をする与党に「勝つまでジャンケン」をする首長。

こんなことで本当に日本は強くなれるのだろうか。果たして強くなる必要があるのか。

「平和であってこそ登山」を謳う勤労者山岳連盟の一員として今の日本を憂う。  
（大阪府勤労者山岳連盟 理事長 高橋 明代）